

当社 環境への取り組み 2001～

- 2001年 家電リサイクル法施行に呼応し、分別廃棄に貢献する取り外し可能なリサイクル部品群を開発、販売開始
- この頃よりお客様から当社部品に環境負荷物質が含有されるかの環境調査が寄せられるようになる
- 初年度125件だった環境調査は欧州RoHS指令が公布された2003年には783件に急増、RoHS指令が施行（2006年）となる前年には3792件の環境調査に対応、以来年間平均3500件のお客様からの環境調査に対応している
- 2004年 ISO14001認証取得
グリーン調達推進委員会発足（翌年グリーン調達対策プロジェクトに名称変更）
ISO14001の活動の下、節電、廃棄物の削減、環境負荷物質管理を社内で推進
- 2005年 当社カタログに業界初となるRoHS指令対応マークの表示を開始し、各部品における環境負荷物質適合状況の早期情報公開に努める
- 2006年 クールビズを導入しつつ、夏場のエアコン設定温度を27℃と定める
- 2011年 流通センターにて照明をLED化、全400本をLED化することにより38%の節電効果を確認
- 2012年 営業車全27台のハイブリッドカーへの随時切り替え開始
2023年4月において寒冷地仕様の1台を除く、全26台のハイブリッド化終了予定
- 2014年 羽田工場にて照明のLED化開始（2022年10月現在119本／380本 31%）
- 2015年 名古屋営業所移転に伴い、照明をLED化
- 2018年 大阪営業所にて照明をLED化
- 2019年 本社にて全367本の照明をLED化
- 2021年 羽田工場にて軽商用車をEV化（当社初の電気自動車導入）
- 2022年 カタログ改訂にあたり、FSC認証用紙使用、グリーンプリンティング認定工場による印刷を実施（水なし印刷、植物油インク）

そしてSDGsへの取り組み

2022年10月27日

国連加盟の193カ国において掲げる **Sustainable Development Goals** 「持続可能な開発目標」を理解し、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際社会共通の17の目標の中から、従来当社ISO14001の活動において推進してきた環境への取り組みはSDGs12番「つくる責任、つかう責任」と捉え、更に継続、強化させ、加えてSDGs13番「気候変動に具体的な対策を」に積極的に取り組むことにより、日本国が掲げた2030年に温室効果ガス排出量を2013年比で46%削減、2050年までにカーボンニュートラルの実現へ当社としても貢献すべく以下の取り組みを行います。



13 「気候変動に具体的な対策を」
2001年より取り組んできた環境への取り組み、省エネ活動等は継続、徹底、強化させつつ、新たなる取り組みとして、製品のバイオプラスチック化へのチャレンジを開始し、更なるCO2排出量の削減貢献を試みます。



7 「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」
当社は部品メーカーとして、再生可能エネルギー（太陽光、風力、バイオマス発電等）の開発メーカー様のニーズに適切にお応えし、部品の生産と供給を担うことを通じてSDGsに貢献します。



9 「産業と技術革新の基盤をつくろう」
当社は創業以来63年に及ぶ部品メーカーとしての社業を通して交通インフラ、通信インフラ、産業インフラの構築に地道に、そして誠実に責任を果たして参りました。その姿勢は変わることなく、常に時代の新しいニーズにお応えして参ります。



12 「つくる責任 つかう責任」
従来通り、製品や生産工程において適正な化学物質及び廃棄物管理を行い、人の健康や環境への影響を最小化する努力を日々怠りません。
また、限りある天然資源の保全のために、節電・省エネ・廃棄物削減等の努力を継続するとともに、石油由来の材料から植物由来のバイオプラスチックに代替する製品開発にも挑戦して参ります。

昭和2年、北陸生まれの当社創業者は「無駄」が大嫌いでした。当社には創業時より各職場にて「無駄の排除」の精神が宿っています。この創業来の精神をもってSDGsに貢献して参ります。

品川商工株式会社
2代目代表取締役社長 中村利恵

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

